日刊 動労千葉

85. 3. 15

No. 1889

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

“出向強要はイヤだ”
＝全国で、ついに始まった動労の組織瓦解＝

動労関西から6名が脱退

当局に代わって首切りを推進する動労「本部」革マルを一掃しよう

動労「本部」革マルは「国鉄を国鉄として残すために骨身を削って働こう」と称し、首切り「三本柱」推進を唯一の運動に組合員を職場から追い出している。ところで、動労上野運転所支部では、「『一時帰休』を申し出た動労組合員に当局が〃待った〃をかけた」のは不当だとかみつき、なんと、「当局の『再建方針の認識度』は、なっていない」と追及する事態が発生している。当局になり代わり、労働者の首切りを推進する動労「本部」革マルの追放・一掃にむけ斗いぬこうではないか。

動労上野運転所支部で起きた事態はこうだ

動労東京地本・上野運転所支部の機関紙『動労上野』№19は、とても労働組合のものとは思えぬ代物である。

「驚くべき『所』当局の言動と認識」と題する機関紙の内容について紹介してみよう。

動労上野運転所支部の土屋某は、〃国鉄における余剰人員の現実と将来について真剣に考えた末に、三本柱を己のものとして一時帰休を決意し、当局に申し出〃（引用は同機関紙による）たのである。ところが、〃上野運転所長・所は、真面目に受けとめず、一時帰休はやめたらどうか、と（土屋を）説得した〃のだ。これに動労上野運転所支部は猛然と怒り、当局に対して、〃現在、最大の課題である余剰人員対策などどうでもよいというのか〃〃国鉄当局者としての方針さえも認識できていない〃と抗議し、当局を謝罪させるとともに〃動労の派遣、一時帰休の取り組みを正当に評価せよ〃と迫り、所長に確約させたというものである。

連日、動労職場で展開されるおぞましい光景

動労「本部」革マルの裏切りによって、「59・2」で二四五〇〇人の「過員」を生み出した当局は、「余剰人員対策」と称する「出向」「一時帰休」「退職勧奨」の「三本柱」を提案してきた。

これは文字通り、国鉄から追い出す首切りそのものであり、15万人首切りにむけた突破口の攻撃である。

動労千葉と国労は、「雇用安定協約破棄」の恫喝に屈せず、「三本柱」の受け入れを拒否し今日に至っている。ところが、動労「本部」革マルはいち早く鉄労とともに片仕切りを行い、「交渉記録抜すい」にふまえ「三本柱」の実効をあげる取り組みを開始した。

動労「本部」革マルは、連日、「会議」なるものを開催し、革マル流の「情勢分析」のもと、「国鉄を国鉄として残すために骨身を削って働こう」「職場と仕事と生活を守る道はこれしかない」と、「出向」「休職」「セールスセンター」行きを自らの組合員に強要した。そして、「三本柱」推進方針に反対する組合員には「利己主義者」「組織破壊分子」のレッテルを貼って追及し、「出向」に同意せざるをえない状況に追いこんでしまうのだ。動労「本部」革マルは「三本柱」を片仕切りした際、「強制・強要はしないことを当局に約束させた」と吹聴した。なんのことはない。当局になり代って組合が強制・強要したうえで「もっとしっかり強制・強要しろ」と、当局の尻を叩いているのである。

動労網干支部（関西）で6名が脱退

今、動労組合員の多くが革マルの反動方針に反発し、機会があれば脱退しようと考えている。

2月18日、動労大阪地本網干支部の青年部員6名が動労に脱退届を提出し国労に加入した。

彼等は「余剰人員対策」として「出向」「一時帰休」「技術教育」のいずれかの選択を強要された後、大阪の企業が筑波万博に設けた〃パビリオン〃への出向を当局と完全一体となった動労から強制され、遂に、動労脱退を決意したものである。こうした出来事は、動労内部で起きている事態のほんの氷山の一角にすぎない。

労働者に「出向」や「休職」を強制する労働組合とは一体何なのか。

動労「本部」は、かの悪名高き日産自動車労組も顔負けする超右翼＝ファシスト組合へと純化しているのだ。当局の手先＝動労「本部」革マルを国鉄労働者の総決起で一掃しなければならない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！